

利上げ懸念で不安定な動き続く株式市場

シニア・ストラテジスト 石黒英之



ポイント① 利上げ懸念で株価は不安定な動き続く

米欧をはじめとした中央銀行による積極的な利上げへの懸念から、世界の株式市場は不安定な動きとなっています。8月下旬に米国で開催された金融・経済シンポジウム「ジャクソンホール会議」で、パウエルFRB（米連邦準備制度理事会）議長が景気よりもインフレ抑制に主眼を置き、金融引き締めを続ける強い覚悟を示したことなどが、足元の市場の混乱につながっているとみられます。

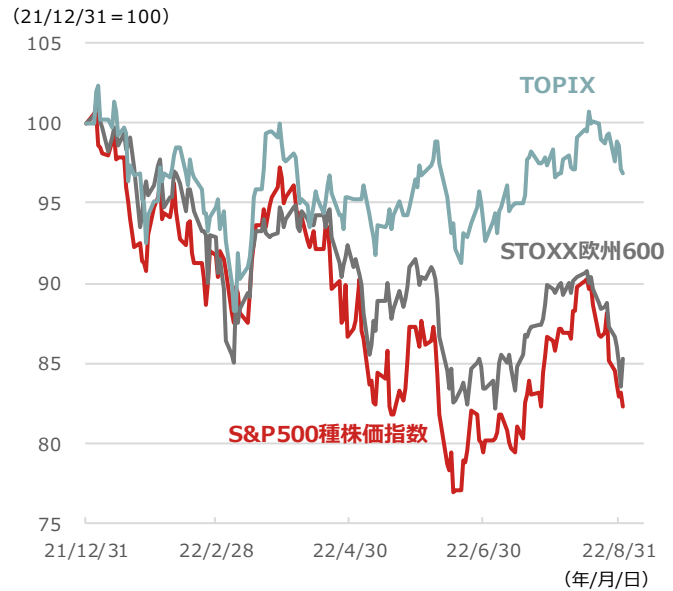
日米欧の株式市場は7月前後から戻りを試す展開が続いてきましたが、米欧中銀が市場の想定以上に利上げを進めるとの懸念が強まっていることから、再び株価は下落基調となっています（右上図）。9月2日に発表された8月の米雇用統計では、失業率の上昇や賃金の伸び鈍化により、ひっ迫する労働需給がやや緩む兆しがみえたものの、同日の米国株は下落するなど、投資家の金融引き締めへの警戒は依然強いといえます。

ポイント② インフレと金融引き締め度合いで差

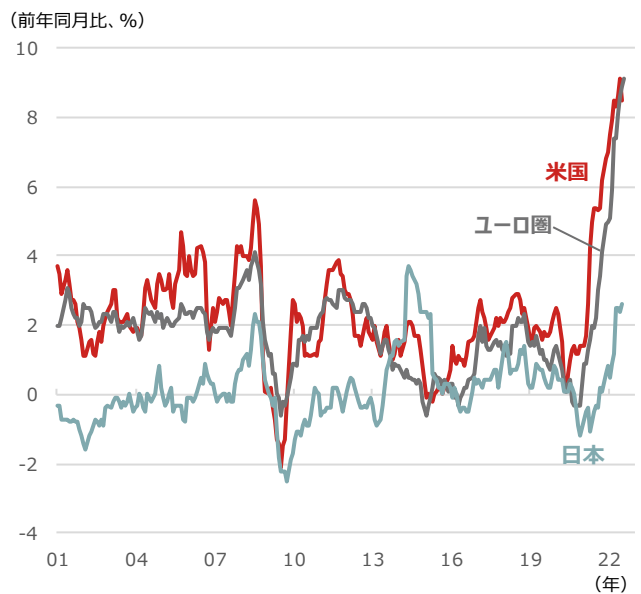
もっとも、インフレと金融引き締め度合いによって株価の動きに差が出ている点は押さえておきたいポイントです。米国やユーロ圏は高インフレが続いていることから、利上げへの警戒が強い一方、日本は相対的にインフレが低水準（右下図）で、足元でも金融緩和を継続しており、金融政策の方向性の違いがパフォーマンス差につながっています（右上図）。

当面は9月8日のECB（欧州中央銀行）理事会や13日発表の8月米CPI、20～21日のFOMC（米連邦公開市場委員会）で、インフレや金融政策の先行きを見極めながら、世界の株式市場は落ち着きどころを探る展開となりそうです。

日米欧の主要株価指数



日米欧のCPI（消費者物価指数）



*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。